

内田光子

Michiko

ピアノ・リサイタル

ハイドン：アンダンテと変奏曲へ短調 Hob.XVII:6
Haydn: Andante with Variations in F minor, Hob.XVII:6

シェーンベルク：6つの小さなピアノ曲 作品19
Schoenberg: 6 Little Piano Pieces, Op.19

モーツァルト：ロンドイ短調 K.511
Mozart: Rondo in A minor, K.511

シューベルト：ピアノ・ソナタ第20番イ長調 D959
Schubert: Piano Sonata No.20 in A major, D959

2026
11.8 [日]

16:30 開場 | 17:00 開演

水戸芸術館
コンサートホールATM

料金 (全席指定)

A席13,000円 | B席11,000円

チケット発売：2026年7月25日 [土]

財団運営維持会員先行予約：7月20日 [月・祝] *電話・WEB予約のみ

水戸芸術館メンバーズ先行予約：7月22日 [水] *電話・WEB予約のみ

主催：公益財団法人 水戸市芸術振興財団 助成：文化庁文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



©Decca Justin Pumfrey

水戸芸術館
ART TOWER MITO

光を纏う、 円熟のピアノズム

現代最高のピアニストのひとりとして、世界中から尊敬と賞賛を集めている内田光子の水戸芸術館でのソロ・リサイタルが今年も実現する。内田は、全身全霊をかけて作品の中に入り込み、徹底的な作品研究を背景に、他の誰も為し得ることのなかった新しい音楽の地平を、緻密な表現を通して出現させる。

今回のリサイタルのプログラムは、ドイツ・オーストリア鍵盤音楽の古典期から20世紀に至る創作の系譜を辿るものである。

まずは、18世紀末のハイドンとモーツァルト。2人は親子くらしいに年齢は離れていたが、深い親交を結んでいた。1790年暮れにハイドンがロンドンに向けて旅発つ際、モーツァルトはこれが今生の別れになるのではと不安を語り、2人は涙を流して抱き合ったと伝えられている。そして、それは現実となってしまう。翌年9月にモーツァルトはこの世を去り、ハイドンが残った。ハイドンの〈アンダンテと変奏曲〉Hob. XVII:6は、1793年に作曲され、モーツァルトの高弟の1人バルバラ・フォン・ブロイアー夫人に献呈されているが、そこには亡きモーツァルトへの想いが籠められているのではと考える研究者もいる。一方、今回取り上げられるモーツァルト作品は、1787年に作曲された〈ロンド〉K.511。「古典派時代のあらゆるクラヴィーア用ロンドの中で、もっとも美しい」とも評される、悲しみに諦観が結実したような作品だ。

今回の演奏会では、この2曲の間に、時代は一気に20世紀初頭へ飛ぶ。伝統的な調性を放棄し、新しい音楽の伝統の構築を願ったシェーンベルクの作品から、広大な無調の沃野に芽を出した〈6つの小さなピアノ曲〉が演奏される。

そして、メイン・プログラムは、内田光子が「誰よりも心に語りかけ、強い影響を受けた、愛してやまない作曲家」と語るシューベルトの作品である。1822年末、シューベルトの生命をわずか31歳で奪うことになる病気が発見される。以来、シューベルトにとって音楽は、終末に向かいつつある我が身の絶望を表明し、魂の救済を希求する場となった。そうしたシューベルトの苦悩と救済の音楽の傑作群が、死の2か月前、1828年9月に作曲された3曲のピアノ・ソナタである。そして、今回取り上げられる〈第20番 イ長調〉は中でも、もっとも流麗で光に溢れている。

円熟を極めた内田光子が、鍵盤音楽の傑作群に命を吹き込み、光を纏わせる。



© Richard Avedon

内田光子（ピアノ） | Mitsuko Uchida, Piano

内田光子は、真実と美の姿を独自に追求しながら、自らが奏でる音楽の世界を深く掘り下げている演奏家である。モーツァルト、シューベルト、シューマン、ベートーヴェンの作品の解釈で高い評価を受ける一方、ベルク、シェーンベルク、ヴェーベルン、クルタークなどの作品に光を当て、新しい世代の聴衆に紹介している。『ミュージカル・アメリカ』ではアーティスト・オブ・ザ・イヤー 2022に選出された。

長年にわたりシカゴ響、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、バイエルン放送響、ロンドン響、ロンドン・フィルなどとの共演を重ね、クリーヴランド管との共演は100回を超える。ハイティンク、ラトル、ムーティ、サロネン、ユロフスキ、ドゥダメル、ヤンソンスといった世界的な指揮者との共演も多い。2016年からアーティストック・パートナーを務めるマーラー・チェンバー・オーケストラとは、ヨーロッパ、日本、北米でのツアープロジェクトを行っている。ウィーン、ベルリン、パリ、アムステルダム、ロンドン、ニューヨーク、東京で定期的にリサイタルを行い、ザルツブルク・モーツァルト週間やザルツブルク音楽祭にも頻繁に出演。

デッカと専属契約を結び、2011年にクリーヴランド管を弾き振りしたモーツァルトのピアノ協奏曲のライブ録音で、また17年にドロテア・レシュマンとで録音したアルバム『シューマンとベルク』でグラミー賞を受賞。

また、長年にわたり若い演奏家の成長を支援。ボルレッティ・ブイトーニ・トラストの創設メンバーであり、2013年よりマールボロ音楽祭の芸術監督も務める。

2005年日本芸術院賞を受賞、文化功労者に選出。作品に対する深い探究と解釈が評価され、2015年には、高松宮殿下記念世界文化賞（音楽部門）、ザルツブルク・モーツァルトウムよりゴールデン・モーツァルト・メダルを受賞。サントリーホール アソシエイト・アーティスト。

水戸芸術館では、2001年にマールボロ音楽祭で出会った若い演奏家たちとの室内楽公演、2011年、13年、18年、21年、25年にリサイタル、23年にはテノールのマーク・バドモアとのデュオ公演を行っている。

チケット取り扱い：水戸芸術館（9:30～18:00 | 月曜休館）

◎エントランスホール内チケットカウンター

◎チケット予約センター TEL 029-231-8000

◎ウェブ予約 <https://www.arttowermito.or.jp/ticket/>

e+（イープラス）<https://eplus.jp/>（PC・携帯）

かわまた楽器店 TEL 029-226-0351

ヤマハミュージックジャパン水戸店 TEL 029-244-6661（店頭販売のみ）

- 車椅子のお客様、盲導犬、介助犬同伴のお客様は、座席へのスムーズなご案内のため、予約時にお知らせください。
- 未就学児のご入場はご遠慮ください。
- 公演の内容や出演者は、変更になる場合があります。
- 公演中止の場合を除き、一度購入されたチケットの払い戻し、交換等は出来ませんのでご了承ください。

水戸芸術館

〒310-0063

茨城県水戸市五軒町 1-6-8

TEL 029-227-8111

<https://www.arttowermito.or.jp/>

